

サウジアラビア電力公社（SEC）発電分野訪日研修の実施

（2025年1月20～24日）

2025年2月4日

一般財団法人 中東協力センター

中東協力センターは、日本とサウジアラビア両国間の電力分野における関係強化と、日本企業の新たなビジネス機会創出を目指し、これまでサウジアラビア電力公社（SEC）との協力を深めてまいりました。この度、SEC 発電部門から幹部・技術者 10 名を日本に招き、1月20日から24日まで「**発電分野訪日研修**」を実施しました。

研修の概要

今回の研修は、関西電力(株)および関西電力送配電(株)のご協力のもと実現しました。SEC 側と研修内容につき事前に協議を重ね、日本の電力事情、発電設備の保守・運用、運転員の育成、脱炭素技術などのテーマを中心に研修を実施しました。

研修では座学講義に加え、関西電力グループが所有する複合火力発電所や給電指令所の視察を行いました。また、近隣の日本メーカーのガスタービン製造工場、脱炭素技術の実証施設、発電機製造工場の視察も行いました。これらを通じ、SEC 参加者と日本側参加者との間で活発な質疑応答や意見交換が行われ、SEC 参加者は日本の電力システムの運用手法や、安全に配慮した効率的な保守体制の構築に関する知見を深めました。今後の SEC 所有の発電所における運転・保守の業務に活かしたいとの感想が聞かれました。

さらに、研修期間中には日本メーカー数社の協力を得て、発電プラント制御や脱炭素技術に関するワークショップも開催しました。この場を通じて、SEC 参加者と日本企業との関係構築が進み、日本の質の高いインフラ技術を紹介する機会ともなりました。



関西電力(株) 座学講義



発電所視察

研修の成果

SEC 参加者を代表するオマル氏（Manager, Contract Department）は、プラントコミュニケーション技術の紹介が印象深かったと述べ、関西電力グループやその他関係者への感謝の意を表明しました。また、今回の研修にご協力いただいた関西電力グループや視察先企業、日本メーカーからも、今後も継続的な技術・人材交流の機会を希望する声が寄せられました。

サウジアラビア電力セクターの将来

サウジアラビアは、国造りの指針である「ビジョン 2030」において、2030 年までに電力セクターのエネルギーミックスにおける再生可能エネルギーを 50%に引き上げる目標を掲げています。目標達成には新たな再エネの導入・開発が必要ですが、既存のインフラの整備や新技術を活用した将来計画が安定した電力供給基盤となります。今後、SEC においては、既存の発電設備の効率的な運転や、適切な保守・修繕計画の実施、発電所の運用ノウハウを保有していくことが不可欠であり、そのなかで SEC が果たす役割はますます大きくなると考えられます。

当センターは引き続き、SEC をはじめとするサウジアラビアの関係機関と協力し、電力分野における両国間の関係強化と重層的な関係構築に努めてまいります。また、これを通じて日本企業の投資機会の拡大や事業展開を支援し、持続可能な発展に貢献してまいります。

###